

遷延性・慢性咳嗽は不安や抑うつと関係するか

新潟県立加茂病院内科

藤森勝也、江部佑輔

新潟大学大学院医歯学総合研究科

下条文武

新潟大学医歯学総合病院医科総合診療部

鈴木栄一

【背景】 遷延性・慢性咳嗽は、筋肉痛、不眠、尿失禁などを引き起こし、また咳嗽のために、レストラン、コンサートに行きたくなくなり、心理社会的健康に影響する可能性がある。

【目的】 遷延性咳嗽患者で、不安や抑うつがみられるか否か、HADS調査票を用いて検討する。

【対象と方法】 遷延性・慢性咳嗽患者で、治療前にHADS調査票を用いて、不安と抑うつがみられるか否か検討した。判定基準は、スコア11点以上をdefiniteとした。不安や抑うつスコアが、年齢、性、喫煙歴、咳嗽持続期間、末梢血好酸球数、血清IgE値、喀痰中好酸球比率、鼻汁中好酸球の有無、呼吸機能、咳感受性 (C5)、気道過敏性 (Dmin)、QUEST問診票でのGERDの有無と関係するか否か検討した。

【結果および結語】 遷延性・慢性咳嗽30例で検討できた。年齢 54 ± 18 歳、男10例、女20例。咳嗽持続期間 11.8 ± 13.7 週。HADS調査票の結果は、不安スコア 4.6 ± 2.6 点 (0-9点)、抑うつスコア 4.1 ± 2.4 点 (0-8点)であった。HADS調査票で11点以上はみられなかった。不安スコアは、咳嗽持続期間と有意な正の相関関係を認めた。遷延性・慢性咳嗽症例では、咳嗽持続期間が長くなると、不安が増すことが示唆された。